

平成30年度 天城中学校グランドデザイン

ACTION

目指す生徒の姿(身に付けたい資質・能力)

- (1) 多面的・総合的に考えることができる生徒
- (2) 他者とコミュニケーションがとれる生徒
- (3) 仲間と協力し、よりよい集団・社会のために行動できる生徒

生徒の実態

- 素直に行動する。落ち着いた生活をしている。
- 行事や縦割り活動等、協力して取り組む。
- △宿題は行すが、自主学習はあまりできていない。
- 自ら行動に移せない。思いがうまく伝えられない。
- 集団への所属感はあるが自尊心の低い生徒がいる。

PLAN

校訓 克己

学校教育目標
自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒

重点目標

- (知) 積極的に授業に参加し学び合いをとおして力を付けよう
- (徳) 思いやりをもって人の話に耳を傾けよう
- (体) 体を鍛え心身ともに健康な生活をしよう

学校経営目標

- (1) 子どもが主体的に学ぶ授業づくりと家庭学習の習慣化により確かな学力の定着を図る。
- (2) 縦割り活動や体験活動を通して互いのよさを認め合い、自信をもって思いを発信できる生徒を育てる。
- (3) 「楽しい学校」をつくることを共通の目的とし、思いやりと規律のある生活の中で好ましい人間関係を形成する。
- (4) 保護者・地域との信頼関係を築き、「天城学習※」を通して地域の教育力を学校に取り込むと共に、持続可能な地域づくりについて地域へ発信することで、開かれた学校づくりをめざす。
- (5) 職場として働き方を意識し教員や事務職員等及びSC、SSW等の非常勤職員が連携して取り組む。

※天城学習＝総合的な学習の時間を軸に展開し、ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) の視点でカリキュラムマネジメントされた学習

DO

学習指導

- ◎「話を聞く」ことを中心に授業規律を徹底し、どの子も授業に参加できるようにする。
- ◎自己表現として「話す」「書く」「活動する」場面を意図的に取り入れ、かかわりを通して理解を深める。

- ・教室の整理整頓
- ・「分からない」といえる雰囲気作り
- ・学習課題の明確化
- ・問題成立場面・問題解決場面等でのかかわり合いの設定
- ・家庭学習の充実(学習優先日の設定)

研修・総合

- ◎天城学習の成果やノウハウを教科の授業にも生かし、主体的・対話的で深い学びを実践する。
- ◎生徒指導が機能する授業を行うことで、どの子にも活動を保証し必要な資質・能力を確実に育成する。

- ・天城を持続可能な地域にするにはどうしたらよいかというテーマで自我関与を強める。(問いの連続)
- ・主体的な自己選択の場面がある問題解決的な学習の推進
- ・見取りと支援による価値付け・意味付け

生徒指導・道徳

- ◎生徒一人一人が正しく判断し、適切な行動を選択できるように事後の振り返りを大切にする。
- ◎特別支援教育の視点で生徒の行動を理解し、必要なソーシャルスキルを身に付けられるよう支援する。

- ・自己決定の場面の設定 + その選択・行動について振り返りの機会の設定
- ・リーダー育成のためのプログラム委員会の充実
- ・互いのよさを認め合う活動
- ・教師あるいは生徒同士による評価のフィードバック
- ・道徳授業の確実な実施
- ・心の時間の設定

特別活動

- ◎縦割り活動を充実させ、協力して活動する場面を多く取り入れることで、共感力や協調性を高める。
- ◎話し合い活動を活発化させ、人の話を心で聴き、自分の思い・考えを伝えるようにする。

- ・生徒会執行部、委員会企画(集会、常時活動)による縦割り活動場面の充実
- ・縦割りグループによる清掃、体育の部での協力
- ・よりよい集団となるための学級や縦割り活動での話し合い活動の充実

CHECK

開かれた学校…『地域との協働』

- ① 情報発信(たより・HP・学校評価等)による信頼関係づくり
- ② 地域と連携した行事・防災対策の充実(学校・地域行事)
- ③ こども園・小学校・中学校の連携(特に天城小学校との連携)
- ④ 保護者や学校評議員・学校関係者評価委員による評価活動の充実
- ⑤ 地域との文化の交流(地域交流・天城学習)
- ⑥ P T S 活動の活性化

学校自己評価
生徒アンケート、Q U
学校関係者評価
学力・学習状況調査等